



# 動物レスキュー通信

2020年7月 第86号

(令和2年7月1日発行)

発行元

一般財団法人 国連世界動物救済支援機構 詩月財団

詩月(しづく) : 詩月財団 理事長  
愛玩動物飼養管理士 一級  
ペット災害危機管理士 三級

お問い合わせ : [sizuku.foundation@gmail.com](mailto:sizuku.foundation@gmail.com)

## 人と動物の共通感染症 感染経路と予防



まだまだ新型コロナウイルスの感染拡大が終息しない中、海外では飼い主さんからワンちゃん、ネコちゃんにコロナウイルスが感染した例もあります。このように人間から動物へ、動物から人間へと感染する病気のことを「ズーノーシス」と言い、コロナウイルスだけではなく、他にもたくさんズーノーシスは存在します。世界保健機関(WHO)によると、世界には約800種類ものズーノーシスがあり、その中でも特に重要と言われているものだけでも4分の1の約200種類あると言われています。日本国内でも愛犬、愛猫などのコンパニオンアニマルとの関わりが深いものが約60種類あります。今回流行している新型コロナウイルスの主な感染経路は飛沫感染や接触感染と言われています。ではズーノーシスはどのような経路で感染するのかを見ていきましょう。

### 様々な感染経路

① 経気道感染(飛沫感染・空気感染) 呼吸器から感染します。感染している動物の咳やくしゃみなどの飛沫を吸い込んで感染する「飛沫感染」。そして空地中に漂っている病原体を含んだ小さな粒子を吸い込んで感染する「空気感染」の二つがあります。② 経口感染 病原体が付着したものに触れた手を口の中に入れたり、素手でつかんで食べ物や口に運ぶ、病原体を含ん

だ水や食べ物や口に入れるなどして感染する。③ 接触感染(直接接触感染・関節液接触感染) 皮膚や粘膜の接触、血液や体液を介した感染。わかりやすく言えば感染している動物に咬まれる、引っつかれるなどして感染する「直接接触感染」。病原体が付着したものに触れるなどすることによって感染する「間接接触感染」があります。④ 母子感染 病原体に感染している母親から子供へと感染します。その中でも妊娠中に胎児に感染する「胎児感染」、出産時に胎児が産道を通る際に感染する「産道感染」、出産後に子供が母乳を飲むことで感染する「経母乳感染」などがあります。様々なズーノーシスがある中でも最も怖いのが狂犬病。現在の日本では狂犬病の予防接種は義務付けられていますので発生していませんが、かつては日本も狂犬病に苦しめられていました。海外では今でも狂犬病は発生しており、オーストラリア、ニュージーランド、アイルランド、スウェーデンなどのごく限られた国を除いてほぼ全ての国で流行している感染症です。年間約6万の方がお亡くなりになられており、その6割はアジアで起こっています。そしてその狂犬病が今年5月に日本国内で発症者が確認されました。就労のためフィリピンから来日した方で、昨年左足首を犬に咬まれたとのこと。狂犬病の何が怖いのかというと、まず発症までの潜伏期間は1か月〜3か月ほどもあり、他の感染症よりも潜伏期間が長めです。今年感染が確認された方は8か月経過した後発症

症しています。過去には感染後8年後に発症した事例も報告されているそうです。発症すると不安感、恐水症(水を飲むときにのどの筋肉がけいれんして痛みがあるため、水を怖がってしまう症状)、麻痺、けいれん、錯乱などの神経症状が現れます。そして数日間死に至ります。その死亡率はほぼ100%です。というのも狂犬病に対する治療薬は存在せず、症状に依じた対症療法が行われるだけです。完治するということは無いのです。ではどのようにズーノーシスを避けられるのでしょうか? まず、狂犬病の予防接種は必ず受けさせてください。散歩の際にはほかの動物の糞尿や嘔吐物に極力触れないようにする。また、ゴキブリやネズミなどから感染することもあります。ノミやダニ、回虫、条虫なども感染源となりますので、こまめなブラッシングやシャンプーなどをし、ワンちゃん、ネコちゃんの身体を清潔に保ち、定期的な駆虫も行いましょう。その他、病気になる免疫力を下げることはないように、適度な食事と水分、そして運動不足にも気を付け、健康を維持してあげましょう。飼い主さん自身が気を付ける点としては、ワンちゃん、ネコちゃんとのキスや口移し、同じ布団で寝るなどの親密な接触で感染する可能性が高いですので、スキップはほどほどにとどめておきましょう。そしてスキンケア後の手洗いは重要です。キッチンなどの出入りもできるだけさせないようにしましょう。また、ワンちゃん、ネコちゃんの使用する食器や敷物、タオル、おもちゃなども清潔に保ち、排せつ物はすぐに片付ける習慣をつけましょう。普段の生活の中で出来る感染症対策はたくさんありますので、ぜひ実行して、飼い主さんとワンちゃん、ネコちゃんの幸せな生活を少しでも長くが非常に大切です。(詩月)